

# 第9回 研究全体会

令和8年3月10日(火)

研究推進委員会

## 令和7年度 校内研究テーマ

～目標に向かって自ら学び続ける児童の育成～

## 今日の目的

- ・今年度の“自分”を振り返る
- ・次年度について話し合う

# 大田区立梅田小学校 令和7年度研究構想図

文部科学省 中央教育審議会

教育のデジタル化

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）

東京都教育大綱 東京の目指す教育

「誰一人取り残さず、すべての子供が  
将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」

おおた教育ビジョン

「笑顔とあたたかさあふれる、  
未来を創る力を育てる」

大田区立梅田小学校 研究推進委員会長期目標

「Society5.0に向けた梅田小の教育」

令和7年度 研究主題

目標に向かって自ら学び続ける児童の育成

## 目標に向かって自ら学び続ける児童



### 【研究の流れ】

前年度は「単元内自由進度学習の単元開発」を主題に研究授業を中心とした仮説生成型の研究を進めてきた。

年度末には、主体的な学び手が目指す学習者像を「見通す力」「実行する力」「振り返る力」の三つの柱に分類して明らかにすることができた。

今年度は、このような研究の経緯を踏まえながら、学習形態を限らずに上述の学習者像を目指して研究を進めていく。

### 【研究の視点】

「目標に向かって自ら学び続ける児童」は方向目標であり、決まった正解はない。

研究を通して答えを求めるのではなく、目の前のこどもたちと向き合い、考えていく上での学習観・児童観のアップデートにつなげることが大切である。

#### 視点

- (1) 見通す力
- (2) 実行する力
- (3) 振り返る力

それぞれの力の向上に向けた手立てについては、見える現象だけでなく、その背景にある要因に想像を広げて推察する必要がある。つまり、学習者視点と教師視点を往還しながら授業を見ていくことが欠かせない。

# 【参観および協議に向けた視点】

「見通す」  
「実行する」「振り返る」

における児童像に迫っている

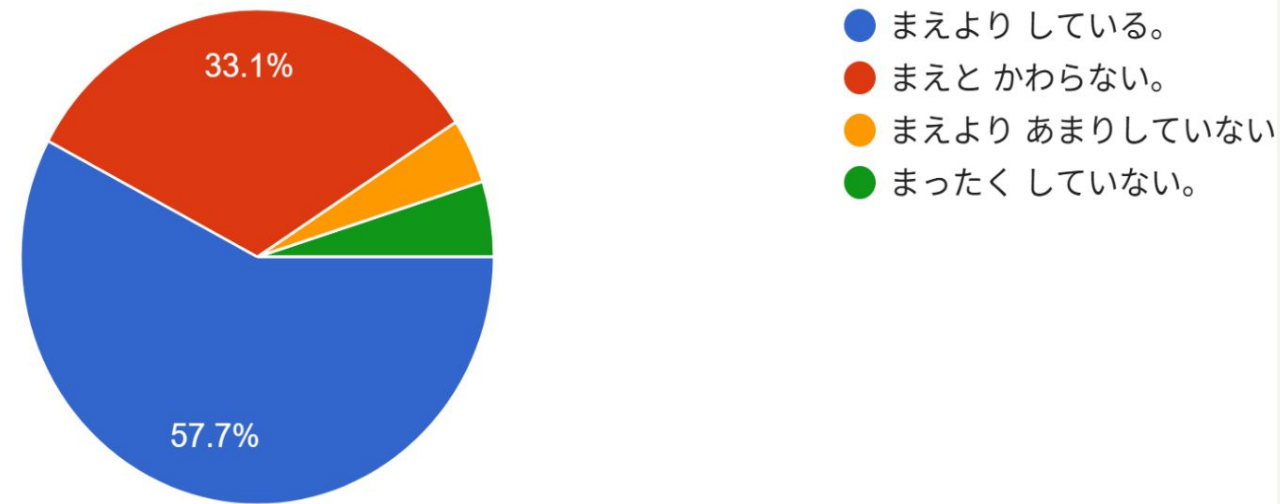


# 各部会の実践

学年	教科	単元名
1	算数	ひきざん
2	生活	もっと知りたいたんけんたい
3	理科	電気の通り道
4	理科	物のあたたまり方
5	社会	これからの食料生産とわたしたち
6	おおた未来づくり	つなげよう地域の輪

① じぶんのめあてを たてて、がくしゅうしていますか。

142 件の回答



【めざす児童像】

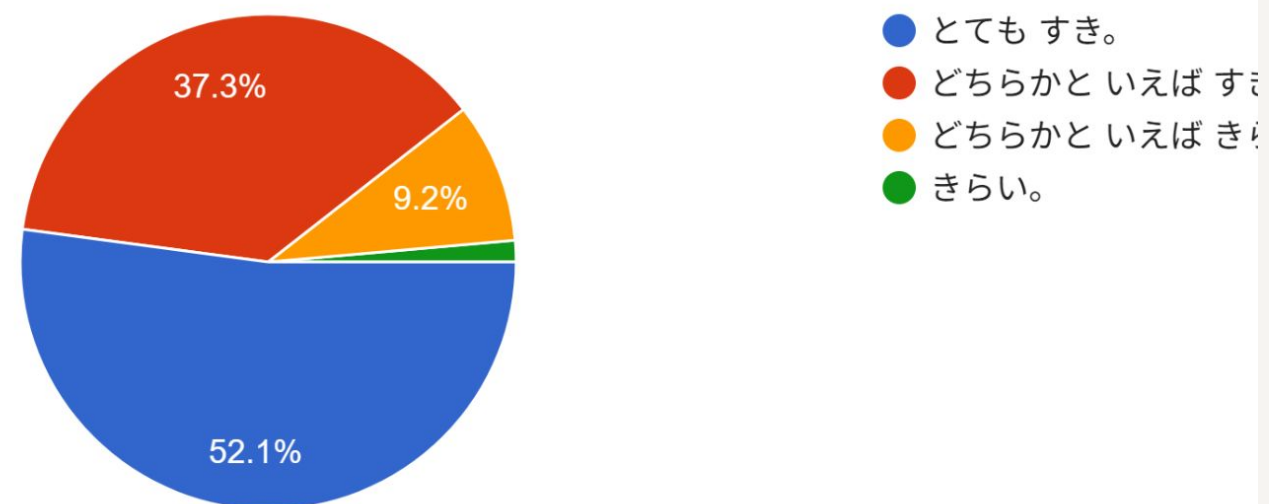
- ・自分に合った学習のペースを進んで選択し、粘り強く問題の解決を図ろうとする。  
→年度末の89.4%がコース選択に関して「好き」と回答。
- ・指導者や友達と対話しながら、試行錯誤して自分に合った学習方法を模索し、目標に向かって学び続けている。  
→年度末の78.9%が先生や友達と相談しながらの学習を「好き」と回答。
- ★自分のめあてを立てて学習していると回答した児童は全体の90%以上をしめている。
- ★課題・方法を選択できることは児童にとっては「好ましい」と感じられるようだが、その内容を充実させたり、選択の根拠をしめさせたりすることが大切(講師の話より)。

3学期の単元では、選択理由を自由記述させた。

「自分に合っているから。」「前は課題をやりきれなかったから。」と、1年生なりの根拠を示すことができていた。

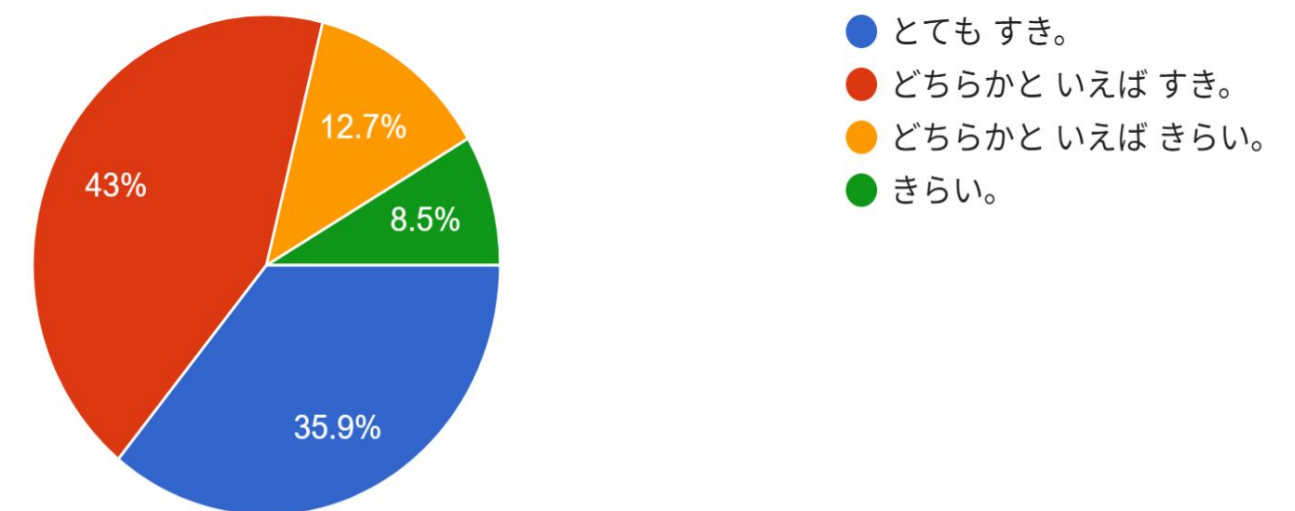
② たしかめコース・カンガルーコース・トライコースなど、じぶんでペースをえらべる学しゅうは すきですか。

142 件の回答



④ 先生や ともだちに そうだんしながら 学しゅうすることは、すきですか。

142 件の回答

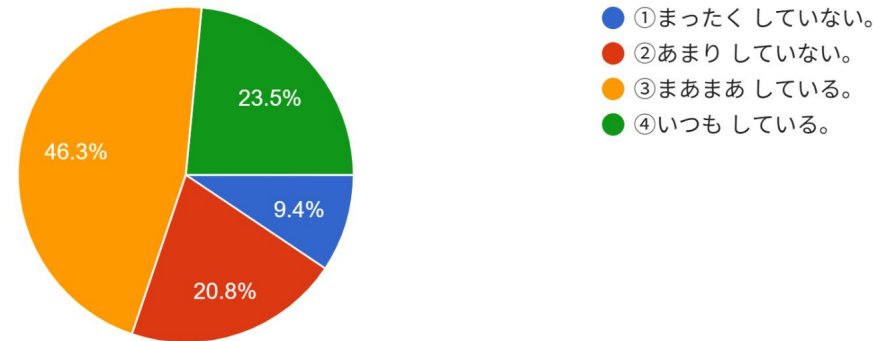


# アンケート結果 児童のアンケートより

## 2年生

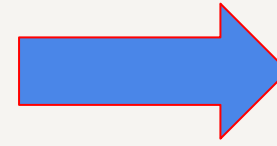
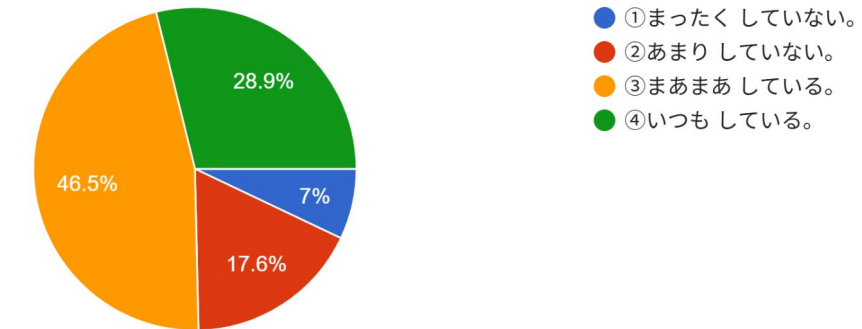
【しつもん2】 がくしゅう学習のほうほうや、学...、自分でえらんだりきめたりして、学んでいる。

149 件の回答



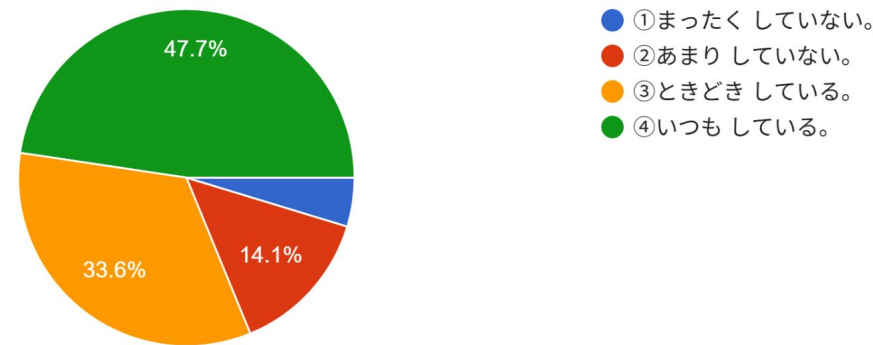
【しつもん2】 がくしゅう学習のほうほうや、学...、自分でえらんだりきめたりして、学んでいる。

142 件の回答



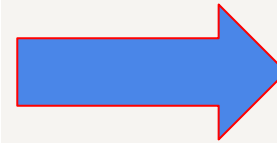
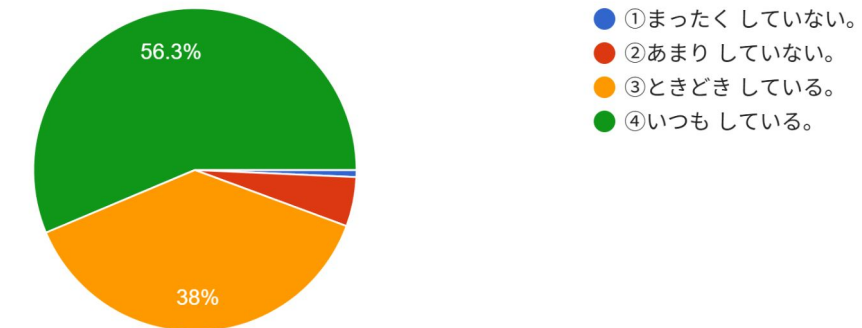
【しつもん6】 さいしょはかいけつすることがむずかしいとかんじる間だいにも、がんばってちょうせんしている。

149 件の回答



【しつもん6】 さいしょはかいけつすることがむずかしいとかんじる間だいにも、がんばってちょうせんしている。

142 件の回答



### 【めざす児童像】

**モデリングを通して、学びを自己調整する方法を一つでも多く経験し、自ら学びを選択して自己決定していこうとする児童**

実態調査の比較をすると質問②「学習の方法や学習のペースを自分で選んだり決めたりして、学んでいる。」の項目が69.8%だったのに対し、75.4%と上昇が見られた。また、質問⑥「最初は解決することが難しいと感じる問題にも、がんばって挑戦している。」では、81.3%から94.3%と大きく上昇が見られた。

2年生の児童はこの1年間教師のモデリング、または、友達からのモデリングを通して、様々な学びの方法を獲得してきた。学び方のパターンを獲得していくうちに、自分たちで学びを進めるといった気持ちが高まった姿がたくさん見られた。また、その学習方法を次は試してみようなどの自分なりにどんな方法で学ぶかといった選択できる場を設定することによって、2年生なりに自己決定していくことが少しずつできるようになってきた。ただし、自分が選択した学び方が実際に安易な考えで選んでしまい、自己調整できているかと考えことは難しい。学び方の選択肢は増えたが、それを自分で効果的に用いるかは次の学年での課題となると考える。

# アンケート結果 児童のアンケートより

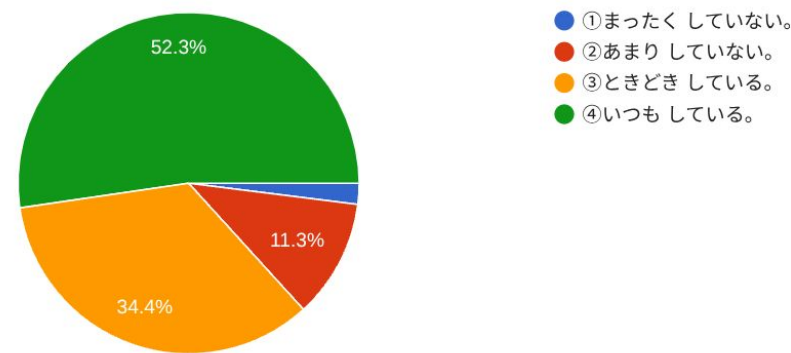
3年生

令和7年12月

令和8年3月

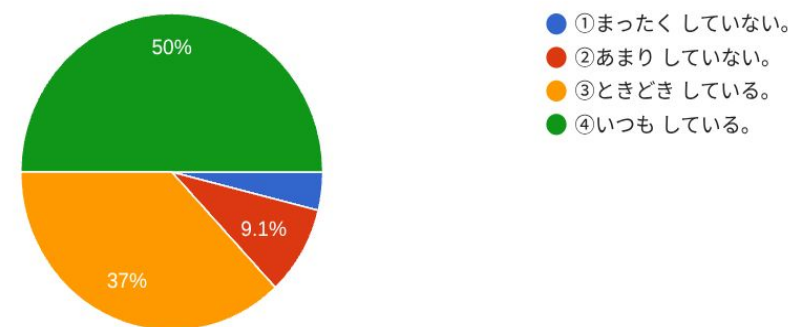
さいしょは かいけつすることがむずかしいと感じる問題にも、がんばって ちょうせんしている。

151 件の回答



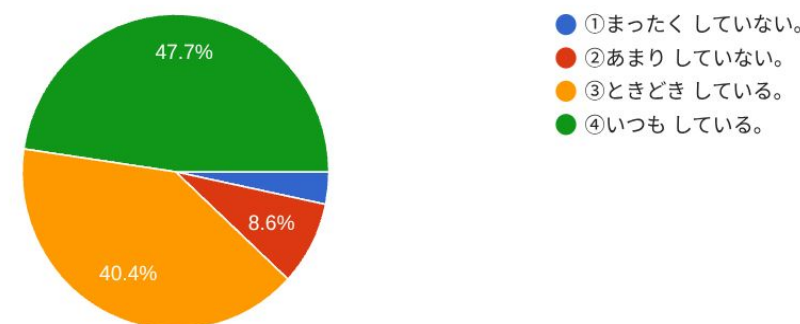
さいしょは かいけつすることがむずかしいと感じる問題にも、がんばって ちょうせんしている。

154 件の回答



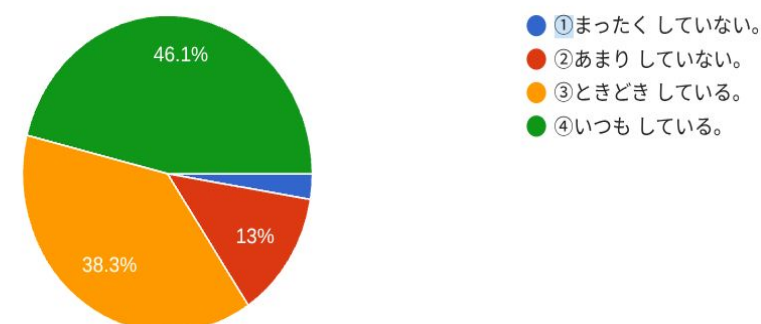
一人で学んでいて、かいけつできないもんだいに出合っても、あきらめないで やりつづけている。

151 件の回答



一人で学んでいて、かいけつできないもんだいに出合っても、あきらめないで やりつづけている。

154 件の回答



## 【目指す児童像】

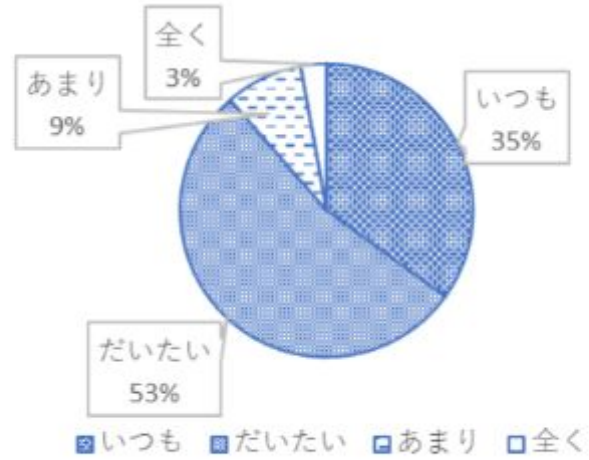
- ・自分のめあてに対して思いや考えをもって、問題を解決しようとする。
- ・目標に向かって粘り強く取り組むことができる。

上段の「最初は解決することが難しいと感じる問題にも、頑張っって挑戦している。」では、「いつもしている・している」と回答した児童が86.7%⇒87%に増えたことから、自分のめあてを立てる中で試行錯誤し、解決方法を模索する力が身についてきたと捉えることができる。

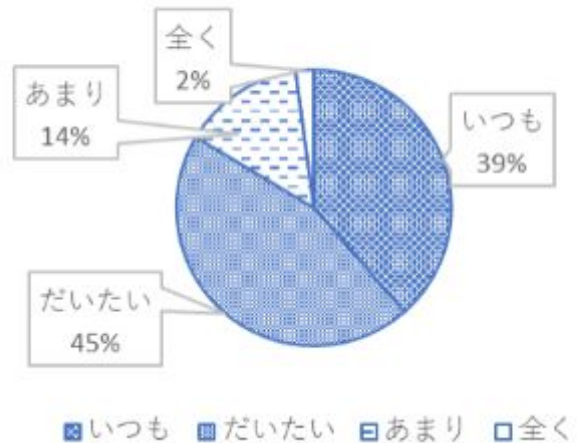
一方で、下段の「一人で学んでいて、解決できない問題に出合っても、あきらめないでやり続けている。」では、「いつもしている・している」と回答した児童が88.1%⇒84.4%と約4%減少したことから、自分のめあてに向かって挑戦はするものの、難しい問題になったときに最後まで諦めずに取り組めない児童が多いことが分かった。また、友達の考えに触れる機会はあるものの、他の人の考えを自らの学びに生かせないでいる児童が多いことが考えられる。

## 令和7年12月

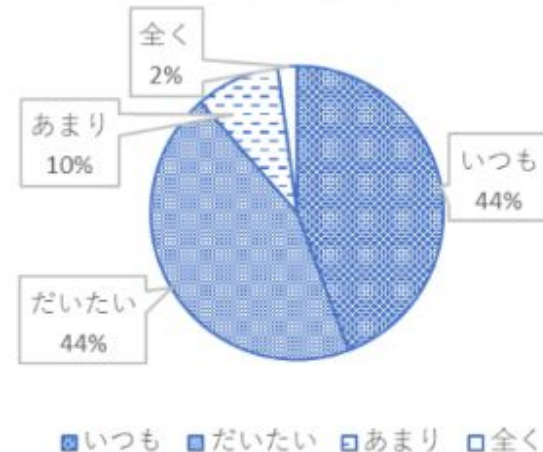
①理由をもって選んだり決めたりしている



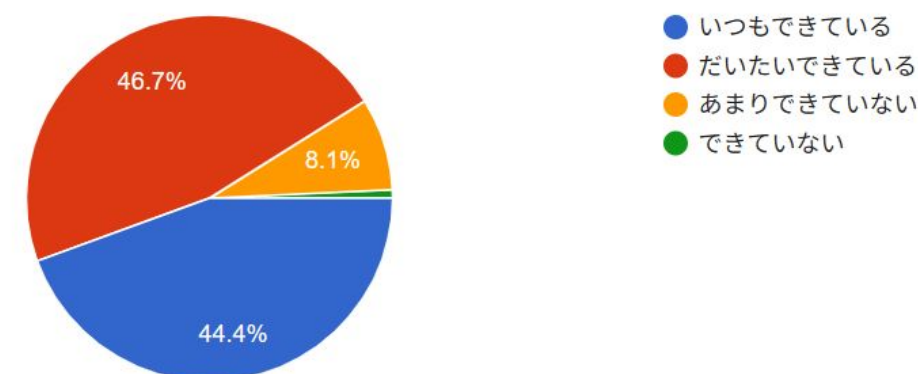
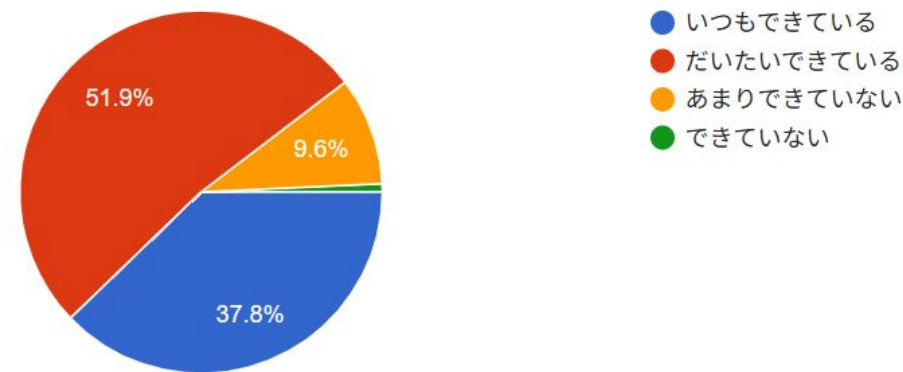
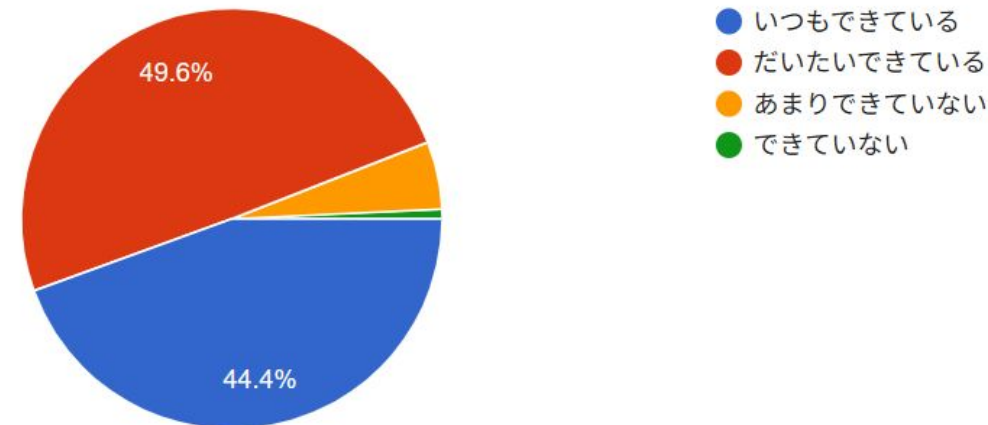
②自分の言葉でまとめている



③他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている



## 令和8年3月



### 【学年末のゴールイメージ】

- ・目標を立て、自分で解決方法を考え、解決しようとする。
- ・活動を次に生かせるように、自分の言葉で説明したり、まとめたりできる。
- ・協働的に学習し、学びを深め合うことができる。

令和7年12月に行ったアンケートでは、学年全体を通して、全ての項目で8割以上が肯定的な回答であった。自分で方法を選んで学習することや、今までの学習や他の人の考えを生かしながら、意欲的に学習していると捉えることができる。意図をもって自分で学習の進め方や解決方法を考えられる力を育てていく必要があると感じていた。



令和8年3月に行ったアンケートでは、学年全体を通して、すべての項目で9割以上が肯定的な回答であった。1割の否定的な回答をしている児童への支援も考えながら、指導していく必要がある。

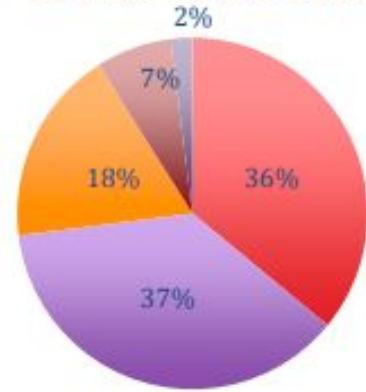
- ①理由をもって選んだり、決めたりしている  
自分の理由をもちながら、選んだり決めたりできる子が増えてきた。
- ②自分の言葉でまとめている  
めあて・まとめは正対して書くことができる子が多くなった。  
自分が考えたことを、考察で書けるようになってきた。
- ③他の人の考えや意見を自分の学びに生かす  
考えの認め合い、比較はできてきている。そこからさらに次年度へ高める。

次学年に向けて、自分で目標を立てて、解決方法を考え、解決しようとする姿が増えてきたり、協働的な学習の中で、みんなでやる場面と自分でやる場面の切り替えが少しずつできるようになってきたりしている。言葉を取捨選択しながら、説明したり、まとめたりできるようになってほしい。

## 令和7年9月実施

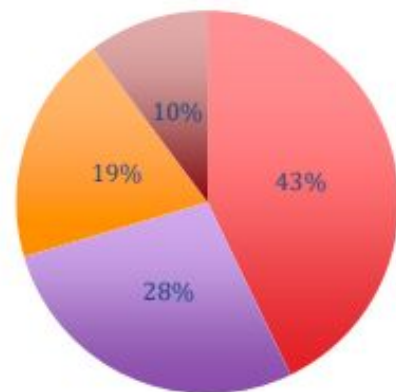
## 令和8年2月実施

授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。



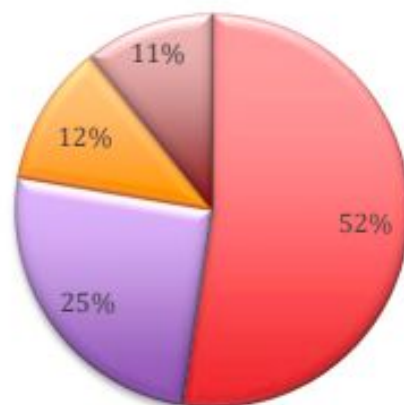
■いつもそうだ ■だいたいそうだ ■ときどきそうだ ■あまりない ■全くない

授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる。



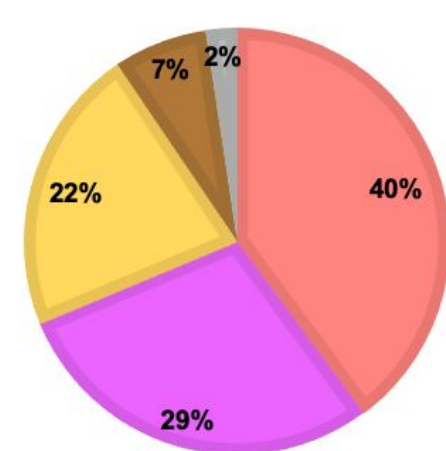
■いつもそうだ ■だいたいそうだ ■ときどきそうだ ■あまりない ■全くない

授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。



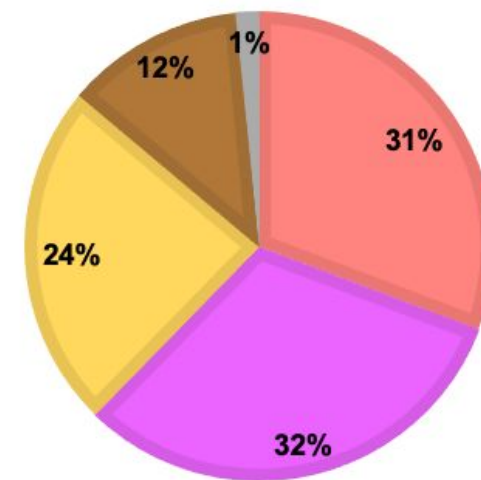
■いつもそうだ ■だいたいそうだ ■ときどきそうだ ■あまりない ■全くない

授業では学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりして学んでいる。



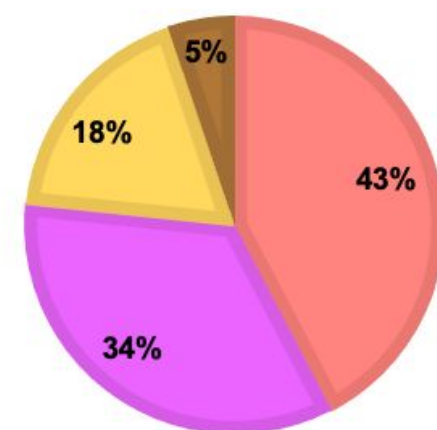
■いつもそうだ ■だいたいそうだ ■ときどきそうだ ■あまりない ■全くない

授業では挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる。



■いつもそうだ ■だいたいそうだ ■ときどきそうだ ■あまりない ■全くない

授業では他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。



■いつもそうだ ■だいたいそうだ ■ときどきそうだ ■あまりない ■全くない

### 【めざす児童像】 「自分発・友達経由・自分行き」

上段「授業では学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりして学んでいる。」に対して、「いつもそうだ」と答えている児童が4%増えたことから、学びを教師主導から児童主体へと転換してきた実践の成果であり、「自分発」の学びが定着してきたと捉えることができる。

一方、中段と下段の結果から分かるように、問いを解決するために、「試行錯誤しながら粘り強く取り組む」児童や、「友達の考えや意見を自分の学びに生かしている」という児童は減少し、中間層の増加が見られた。これは、日々の授業で友達の考えに触れる機会が保障されているものの、他者の考えを通して自己の学びを再構成することができる児童の割合は多くないことが分かった。

今後は、単元構成に対話活動を設けるだけでなく、友達の考えによって自分の考えがどう変容したかを振り返らせるなど自己内省を促す授業づくりを推進していくことが考えられる。

# アンケート結果 児童のアンケートより

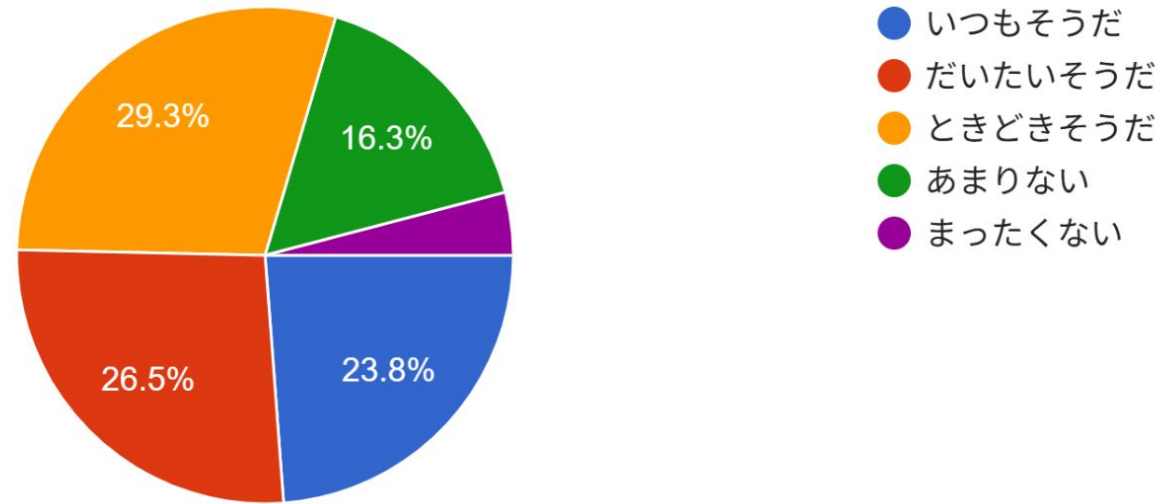
6年生

令和7年11月実施

令和8年2月実施

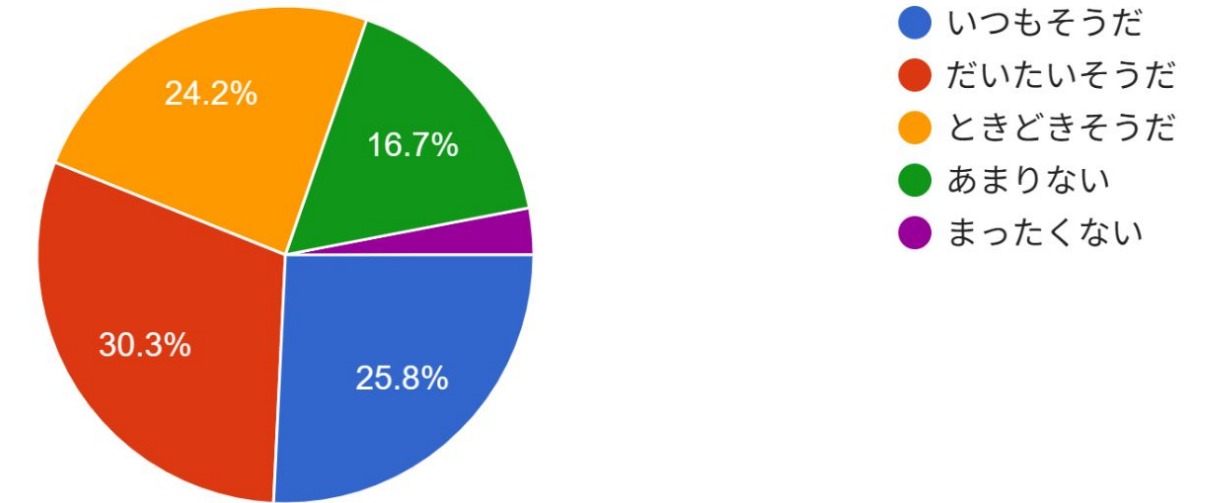
自分のめあてを立てて、学習していますか。

147件の回答



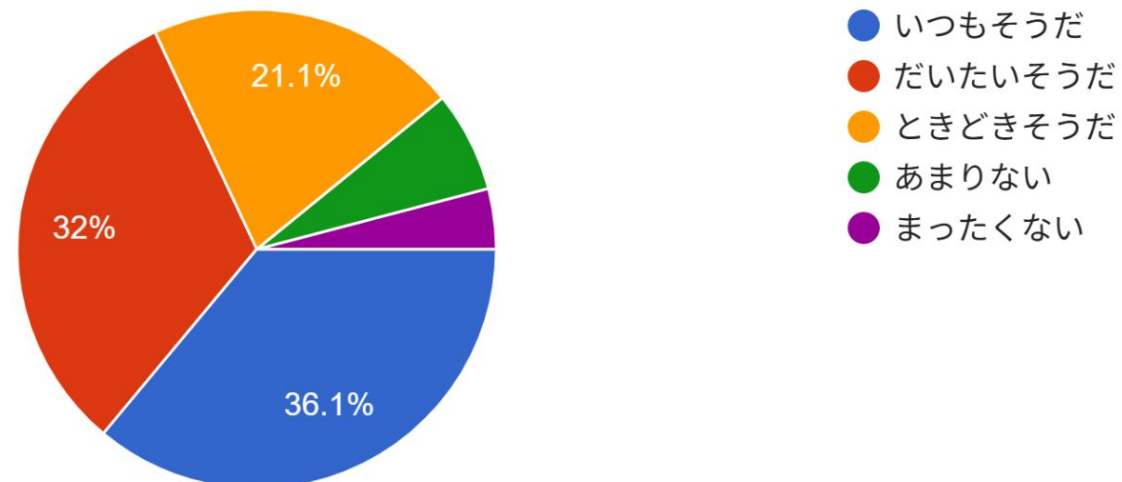
自分のめあてを立てて、学習していますか。

132件の回答



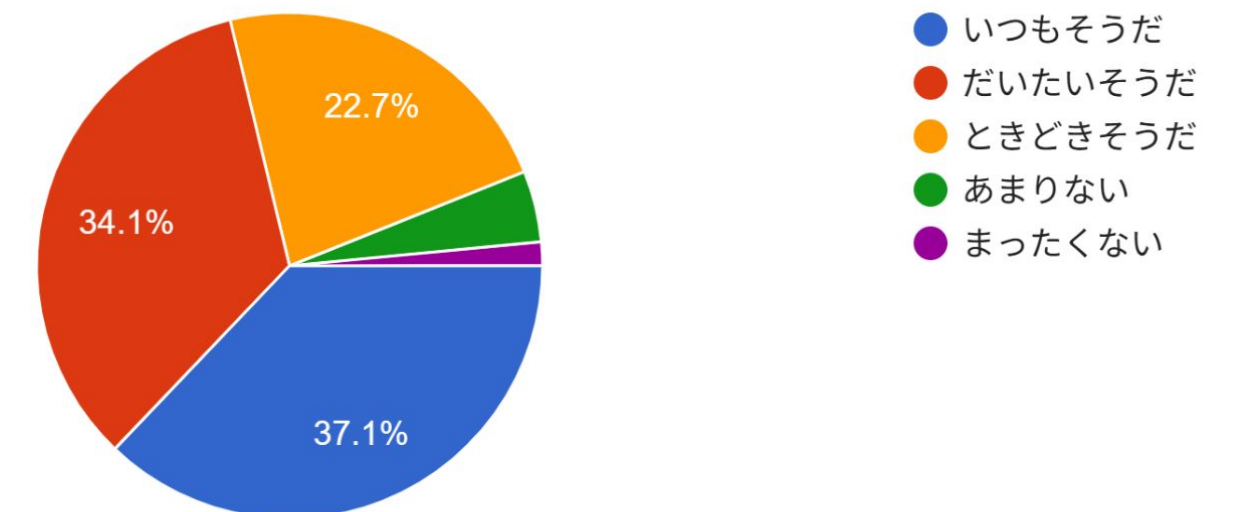
先生や友達と相談しながら学習することは好きですか。

147件の回答



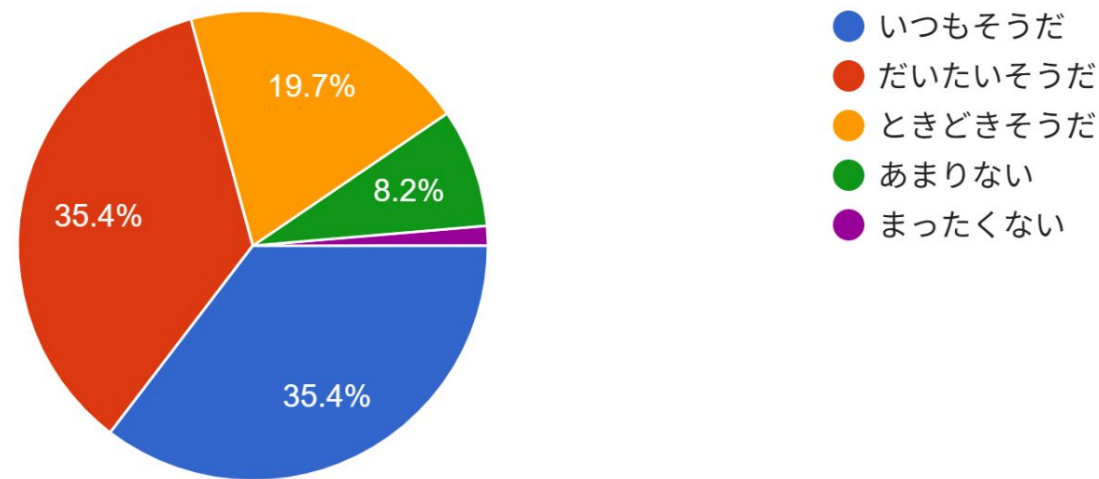
先生や友達と相談しながら学習することは好きですか。

132件の回答



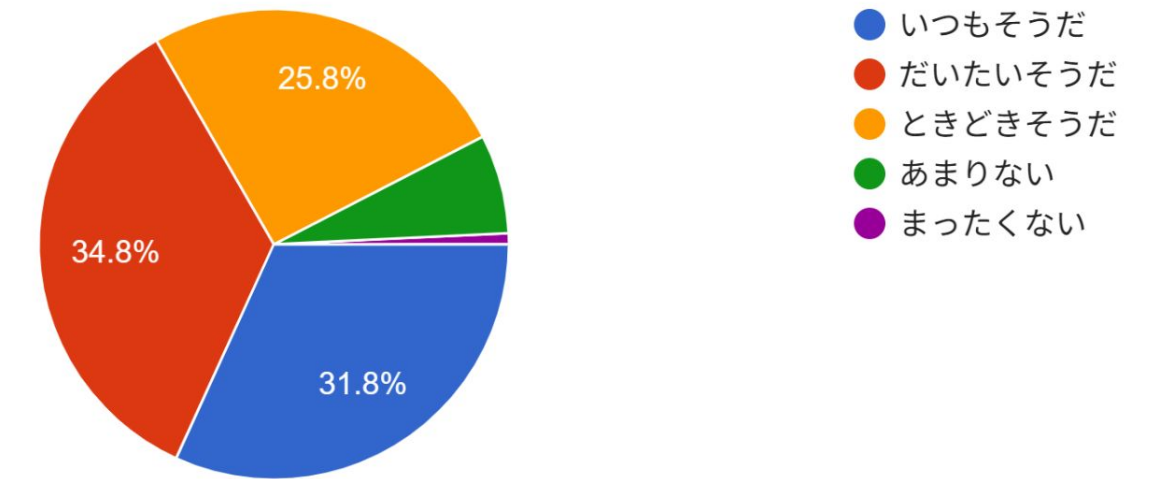
### 令和7年11月実施

最初は解決することが難しいと感じる問題にも、頑張っ  
て挑戦していますか。  
147 件の回答



### 令和8年2月実施

最初は解決することが難しいと感じる問題にも、頑張っ  
て挑戦していますか。  
132 件の回答



### 「コンセプトに立ち返りながら、前向きに課題に向き合い、解決していこうとする児童」の学年末のゴールイメージに対して

6年生では、「コンセプトに立ち返りながら、前向きに課題に向き合い、解決していこうとする児童」を目標として学習を進めてきた。アンケートの「自分のめあてを立てて学習していますか」という項目では、11月の50.3%から2月には56.1%へと増加しており、自分の学びの見通しをもちながら学習に取り組もうとする姿が広がってきていると考えられる。

また、「先生や友達と相談しながら学習することは好きですか」という項目でも、68.1%から71.2%へと増加しており、課題に向き合う際に他者との対話を通して解決を図ろうとする姿勢が高まってきていることがうかがえる。

一方で、「難しい問題にも頑張っ  
て挑戦していますか」という項目は、70.8%から66.6%へと減少した。しかし、この結果は単に挑戦が減ったと見るだけでなく、学習を振り返る中で自分の取り組みをより客観的に捉えるようになった可能性も考えられる。こうした振り返りを生かしながら、コンセプトに立ち返って課題に向き合い、粘り強く解決しようとする学びを今後も支えていく必要がある。

# アンケート結果 先生方のアンケートより

研究主題である「目標に向かって自ら学び続ける児童の育成」は図れたと思いますか。

平均値:「3.27/4点中」

## + 成果

自分で**目標や課題を設定し、方法を選んで行動する姿**が多く見られた(低学年～高学年)。

話し合い・意見交流が活発になり、**考えを深め合う姿**が増えた。

実験や探究活動で、**主体的に試行錯誤しながら問題解決に取り組む姿**が見られた。

振り返りの内容が濃くなり、**学習意欲の向上**が感じられた。

学習だけでなく、委員会・行事・地域活動などでも、**目標から企画し実行しようとする姿**が広がった。

ゴールを意識し、そこに向かうための手段を**自ら考える力**が育ってきている。

## - 課題

到達点が決まっている学習では、「自ら」という**姿が弱くなる場面**もあった。

すべての児童に十分広がっているわけではなく、**個人差が見られる**。

児童が迷わず動けるよう、**教師側の見通しある授業構成や支援の工夫**が今後も必要。

## その他

教師が研究主題を意識することで、授業改善が進み、児童の主体性につながっている。

学習で培った「自ら考える力」が、**日常生活にも波及**している様子が見られる。

# アンケート結果 先生方のアンケートより

本校の研究は自分の学習観・児童観のアップデートにつながったと思いますか。

平均値:「3.47/4点中」

## + 成果

**目標設定・めあての自己決定の重要性** や、ゴールを意識させる声掛けの必要性を再認識。

児童主体の学びを支えるための**教師の伴走的役割**への理解が深まった。

他学年・他教科の授業参観や協議を通して、**多様な見方・指導法・思考ツール** を学ぶ機会となった。

教科の特性を踏まえた「見通し—実行—振り返り」の大切さに気付き、**教材研究への意欲向上** につながった。

子どもが方法を選択し主体的に学ぶ姿から、**学習環境づくりの重要性** を実感。

協議会・講話を通して、自身の授業観・児童観を振り返り、**新たな視点や気付き** を得られた。

## - 課題

「学習観・児童観」の捉え方が十分整理できていないという声。

児童の変容は見えたが、**そこに至る具体的手立てや再現性**をさらに共有したい。

授業によってはアップデートを実感しにくい場面もあり、**研究の深まりに差**があった。

学習観については、**より一層の教材研究が必要**と感じる教員も多い。

## その他

校内研究そのものの意義は高く評価。

「新しい気付き」よりも**自分の実践の再確認**になったという意見も一部あり。

# アンケート結果 先生方のアンケートより

本校の研究は日々の自分の授業改善にどのくらいつながったと思いますか。

平均値:「3.4/4点中」

## + 成果

**めあて・ゴールを児童と共有する授業づくり**を意識するようになり、子どもの意欲や主体性の向上が見られた。

交流の場づくり、思考ツール、ICT活用など、**すぐ実践できる手立て**を日常授業に取り入れられた。

教材研究や学年での協働により、**発問・板書・授業構成への意識が高まった**。

「失敗→改善」の学習過程や、児童の変容を大切にする視点が広がった。

研究授業・協議会を通して、**自分の授業を見直す機会**となり、授業づくりへの意欲が高まった。

授業だけでなく、委員会活動や支援場面にも研究主題を生かそうとする姿が見られた。

## - 課題

研究授業前に取組が集中しがちで、**日常的な継続に難しさ**を感じる声。

準備に時間がかかる実践もあり、**取捨選択しながらの活用が必要**。

指導の言語化や細かな手立てについて、**まだ模索中**という意見。

忙しさの中で、学んだことを十分継続できなかったという自己課題。

## その他

「目標・問題・めあて」など用語や扱いの違いに戸惑いながらも、考え続けている教員が多い。

自身の授業観・子ども観を見直すよ**いリフレクションの機会**になった。

# アンケート結果 先生方のアンケートより

## 協議会についてのご意見・ご感想等

### + 成果

複数グループでの対話により、**多様な視点から授業を捉え直すことができた**。

従来型よりも思考・対話の時間が増え、**全員が主体的に参加できる協議会**になった。

少人数で話しやすく、質問や意見交換が活発に行われた。

自分の関心に沿ってグループを選び、**深く話し合える構成**が好評。

教員同士の対話を通して、**授業づくりの具体イメージが広がった**。

活発に意見を交わす本校の風土に合った形で、OJTとしても有効だった。

### - 課題

2回目のグループ選択の基準が分かりにくく、**移動や人数差に戸惑い**があった。

グループ編成や流れについて、**事前の説明や工夫の余地**あり。

全体共有の時間や、講師への質問時間があってもよいという声。

初めは緊張して発言しづらい教員もいた。

### その他

初めての形式で新鮮だった。

さまざま試しながら、**よりよい協議会の形を探っていきたい**という前向きな意見。

講師の有無については意見が分かれた。

# アンケート結果 先生方のアンケートより

## 研究についてのご意見・ご感想等

### + 成果

校内研究を通して、**自分の学びを言語化・メタ認知する大切さ**を実感。

普段の授業にも生かせる実践が多く、**現場に根付く研究**になっていた。

研究推進部や授業者の丁寧な準備・支援により、**学びの深まる授業・協議会**が実現。

授業者として考える過程そのものが貴重な学びとなった。

座席表などにより、児童の名前を挙げながら話せる点は**校内研究ならではの良さ**。

### - 課題

研究推進部の負担が大きくなりがち。**役割分担や体制の工夫**が必要。

児童の変容をより具体化し、**発達段階や個別差に応じた手立ての整理**が求められる。

子どもの課題だけでなく、**教員側の課題共有とスキルアップの仕組み**も必要。

来年度はテーマ別分科会(導入・振り返り・板書など)など、**深め方の工夫**への期待。

教科を一つに絞らず、**専科も参加しやすい研究形態**が望まれる。

### その他

特別な授業ではなく、**日常で再現可能な研究への期待**。

今後も意見交流を通して、より実践的な研究へ発展させたいという前向きな声。

# アンケート結果 先生方のアンケートより

## 来年度につなぐ「授業改善の方向」

### 1 日常授業への定着を軸に

- ・研究授業だけでなく、日々の授業で使える**共通実践**を明確化  
（めあて共有／ゴールの可視化／交流場面の設定など）
- ・各学年で「最低限そろえる授業の型」を共有し、**継続的实践**へ

### 2 学習観・児童観の言語化と共通理解

- ・「目標」「めあて」「問題」の整理
- ・学習の流れ（見通し—実行—振り返り）を全校で統一
- ・教師は“教える人”から**伴走する存在**へ

### 3 児童変容につながる手立ての共有

- ・主体性が高まった場面を事例化し、**再現可能な形で蓄積**
- ・「どんな教師の関わりで、どう変わったか」を整理
- ・到達点が決まった学習でも“自ら”を引き出す工夫を検討

### 4 協働的な授業改善の充実

- ・学年・教科を越えた授業参観と対話の場を継続
- ・中堅層の授業公開も取り入れ、**実践の厚み**をつくる
- ・教材研究の時間を確保し、**準備負担の分散**を図る

## 来年度のキーワード

「日常化」「具体化」「共有化」

研究成果を学校文化として根付かせ、  
“目標に向かって自ら学び続ける児童”の育成をさらに深化させる。

# アンケート結果 先生方のアンケートより

## —「明日の登校を楽しみにすることども溢れる学校づくり」に向けて—

### 1 こども主体を“日常”に

- ・授業・行事・委員会などで、**児童発信の活動**を意図的に増やす
- ・「指示」から「問い」へ（どうしたい？を大切にする関わり）
- ・こどもの願いや意見を起点に、**自分たちで考え、行動できる経験**を積み重ねる
- ・小さな達成感・自己有用感を丁寧な言葉がけで価値づけ

### 3 「わくわく」する授業を研究の軸に

- ・子どもの興味・関心を生かした授業構成
- ・見通しのもてる板書、端的な指示、交流の工夫
- ・「自分たちで考えている」と実感できるしかけ
- ・日常で再現できる授業実践を蓄積（特別な授業にしない）

### 2 教職員も安心して学び合える学校へ

- ・教員同士の対話と実践共有の充実
- ・業務の見える化・仕事術共有による負担軽減
- ・教師自身が挑戦する姿を見せる
- ・心身の安定を土台に、笑顔で子どもと向き合える環境づくり

### 4 一人ひとりが安心して挑戦できる学校づくり

- ・スモールステップと「失敗しても大丈夫」な雰囲気づくり
- ・得意・苦手や特性を認め合い、**誰もが活躍できる場の保障**
- ・授業・生活の中で「聴き合う」「認め合う」関係づくり
- ・特別支援の視点を全体で共有し、児童理解と支援の質を高める

## ◆ 来年度のキーワード

**「児童主体」「安心」「日常化」「伴走」**

こどもも教職員も  
“ここに来るのが楽しみ”  
と思える学校文化の創造へ。